

## 1 がん医療

### (1)がん医療の提供

#### 目指す姿

- がん患者が、県内の医療機関で、より質の高いがん医療を受けることができます。
- 上記の目標を達成するため、手術療法・放射線療法・化学療法のさらなる充実とそれを実践できる効果的なチーム医療体制の整備が進んでいます。

#### 《分野別目標》

区分	指標	現状値（基準値）	目標値
最終目標	5年生存率	—	5年生存率（H21年分）の公表（H28年度） ※5年生存率を公表後、目標値を検討し、設定
	患者やその家族の満足度 (がん治療に関して不安や不満に思う人の減少)	<参考値> 19.6% (H22)	3年以内に評価方法を決定し、目標値を設定
	(参考値) 「治療方針の決定について医療機関からの説明が不十分である」と答えた人の割合		
中間目標	県内がん診療連携拠点病院の県民治療力バー率 (院内がん登録における県内がん診療連携拠点病院の登録割合)	72.6% (H22)	増加

#### ①現状と課題

がん患者がどこでも質の高いがん医療を受けることができるよう、県立医科大学附属病院のほか4病院が、がん診療連携拠点病院として国の指定を受けています。また、国が指定するがん診療連携拠点病院と連携を図りながら、がんの専門的な医療の提供等を行う医療機関として、県では、国保中央病院を地域がん診療連携支援病院として指定しています。（図10）

南和医療圏では、がん診療連携拠点病院の指定要件を満たす病院がないことから、他の医療圏のがん診療連携拠点病院や南和地域にある公立病院がこの地域をカバーしています。

厚生労働省の「患者調査」によれば、入院、外来とも、他府県と比べて、県外の医療機関を利用する人の割合が高くなっています。県民が県内で質の高いがん治療を受けることができるよう、がん医療提供体制の充実を図ることが必要です。（図11、図12）

がんに対する治療法は、手術療法、放射線療法、化学療法の3つがあり、患者のがんの種類や病態に応じ、これらを効果的に組み合わせて治療を行う必要があります。

放射線療法については、実施体制のある医療機関は9カ所、放射線治療専門医は11人となっています。放射線治療を受ける患者数の増加と治療の高精度化が見込まれる中、特定の医療機関に集中する状況を解消し、がん患者が質の高い安全な放射線療法を受けることができるよう、

最新の治療機器の整備を進めるとともに、病院間における連携・協力を進めていくことが必要です。（表7、表9、表10-1、表10-2）

化学療法については、県内において実施体制のある医療機関数は33カ所ありますが、がん薬物療法専門医数は6人となっており、多くの医療機関では、がんの化学療法を専任で実施する医師がいない状況にあります。（平成23（2011）年9月時点）また、化学療法に携わる専門、認定の資格を有する看護師、薬剤師も少ない状況です。がん患者が安全で効果的な化学療法を受けることができるよう、がん診療連携拠点病院及び地域がん診療連携支援病院（以下「がん診療連携拠点病院等」という。）における機能の充実が望されます。さらに、がん診療連携拠点病院等以外の病院との連携方策について検討していくことが必要です。（表8、表9、表11-1、表11-2）

がんに対する治療の充実を図るために、これまでには、放射線療法と化学療法に重点を置き、県内の医療機関における実態把握を進めてきました。しかし、がん患者やその家族に対する質の高いがん医療の提供と細かな支援に向けて、多職種で医療にあたるチーム医療が強く求められるようになっており、放射線療法と化学療法の推進に加え、手術療法の推進や病理診断の実施体制の整備、リハビリテーションの推進の必要性が指摘されています。（表12、表13）

医療従事者の育成に関しては、奈良県立医科大学が、文部科学省の「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」において「集学的がん治療専門医養成コース」を設置し、専門医の育成に取り組んでいます。また、都道府県がん診療連携拠点病院として、県内のがん医療に携わる医師、薬剤師、看護師等を対象とした研修を実施しています。

しかしながら、放射線療法、化学療法、緩和ケア、口腔ケア等のがん医療に携わる医師や歯科医師をはじめ、薬剤師や看護師等の医療従事者の育成が依然として不十分であることや、専門医の質の担保、各医療機関の専門医の情報が一般的には分かりにくいくことなどが、全国的にも課題となっています。（表9）

がん患者は、放射線療法や化学療法の有害事象として、口腔粘膜炎や味覚障害など口腔内のトラブルが発生しやすくなり、摂食障害や嚥下障害、口腔内感染症などが生じるリスクが高まります。口腔内における様々な障害は、がん患者の体力・抵抗力を低下させ、がん治療の成績や患者の療養生活の質の低下を招くと言われており、十分な口腔機能管理（口腔ケア）が必要です。また、がんの周術期における誤嚥性肺炎、局所感染、創傷治癒不良などの種々のトラブル防止や骨転移治療薬による顎骨壊死の防止にも口腔機能管理（口腔ケア）の重要性が指摘されています。

全国と同様、本県においても、がんは小児の病死原因の第1位となっています。「がん診療連携拠点病院院内がん登録全国集計報告書（2010年）」によれば、診断時の住所が奈良県であ

る20歳未満の登録数は41件であり、そのうち県内のがん診療連携拠点病院での登録数は30件となっています。県内では、主に県立医科大学附属病院が小児がん患者の治療を行っています。(表14)

年間の症例数が少なく、また専門医が少ない状況にあることから、全国的にも課題となっているよう、県内でも小児がん患者が必ずしも適切な医療を受けられていないことが懸念されます。

また、成長発達期に治療することから、治療中だけでなく、退院後も長期にわたって日常生活や就学・就労に支障を来すこともあるため、長期的な支援や配慮が求められています。

なお、国では、質の高い医療を提供するために、小児がん拠点病院の指定・整備が進められており、今後は、指定された全国15か所の小児がん拠点病院との連携が重要です。

平成23(2011)年に県内の7つの医療機関を対象に県が実施した調査によれば、インフォームド・コンセントの状況について、告知内容の記録が不明なもの等を除くと9割近くの症例で何らかの告知が行われています。また、平成22(2010)年にがん患者やその家族・遺族を対象に実施した「がん医療に関するアンケート調査」結果によれば、治療方針の決定についての医療機関からの説明について「不十分であると思う」と答えた人は2割程度であり、「不十分であると思わない」と答えた人は約6割となっていることから、ある程度の方は納得していると考えられます。(図19、図20)

今後もがん患者やその家族が納得した治療を受けることができるよう、インフォームド・コンセントや、セカンドオピニオン体制の充実をはじめ、がん治療に関して分かりやすい情報提供が求められます。

表6 県内がん診療連携拠点病院の県民治療カバー率

項目		2008年 平成20年	2009年 平成21年	2010年 平成22年
診断時住所が奈良県 である者の登録数	県内拠点病院での登録数(A)	5,194	5,462	6,142
	県外拠点病院での登録数(B)	618	905	948
	計(A+B)	5,812	6,367	7,090
奈良県のがんによる死亡数(実数)(C)		3,815	3,745	4,046
推計がん罹患死亡比(D)		1.96	2.02	2.09
概算がん罹患者数(C×D=E)		7,477	7,565	8,456
県内拠点病院の県民治療カバー率(A÷E)		69.5%	72.2%	72.6%

出典:がん診療連携拠点病院 院内がん登録 全国集計報告書((独)国立がん研究センターがん対策情報センター)より県作成

表7 県内の放射線治療実施体制の状況

	二次医療圏					計
	奈良	東和	西和	中和	南和	
放射線治療施設数(病院)	3	2	2	2	0	9
リニアック マイクロトロン(台数)	3	5	2	4	0	14

出典:奈良県調べ(平成24年10月)

表8 県内のがん化学療法実施体制の状況

(単位:病院)

		がん化学療法の実施体制の有無		がん化学療法を専任で実施する医師の有無	
		あり	なし	いる	いない
二次医療圏	奈良	9	9	2	7
	東和	7	2	2	5
	西和	6	7	2	4
	中和	7	7	2	5
	南和	4	1	0	4
	計	33	26	8	25

出典:がん化学療法実態調査(平成23年9月 県実施)

表9 がん医療に専門的に携わる医療従事者の状況

(単位:人)

職種	専門従事者	県内	認定主体	名簿更新日
医師	がん薬物療法専門医	6	日本臨床腫瘍学会	2013/1/10
	放射線治療専門医	11	日本放射腫瘍学会	2012/11/19
	乳腺専門医	7	日本乳癌学会	2012/9/24
	消化器外科専門医	97	日本消化器外科学会	2012/11/22
	呼吸器外科専門医	14	呼吸器外科専門医合同委員会	2013/1
	肝臓専門医	56	日本肝臓学会	2012/11/20
	血液専門医	32	日本血液学会	2012/11/8
	がん治療認定医	107	日本がん治療認定医機構	2012/4/1
	がん治療認定医(歯科口腔外科)	3	日本がん治療認定医機構	2012/4/1
	緩和ケア専門医	0	日本緩和医療学会	2012/4/1
看護師	小児外科専門医	4	日本小児外科学会	2012/4/1
	がん専門看護師	4	日本看護協会	2013/1/10
	緩和ケア認定看護師	20	日本看護協会	2013/1/10
	がん化学療法看護認定看護師	9	日本看護協会	2013/1/10
	がん性疼痛看護認定看護師	8	日本看護協会	2013/1/10
	乳がん看護認定看護師	1	日本看護協会	2013/1/10
薬剤師	がん放射線療法看護認定看護師	2	日本看護協会	2013/1/10
	がん専門薬剤師	0	日本医療薬学会	2012/1/1
	がん薬物療法認定薬剤師	7	日本病院薬剤師会	2012/10/1
技師・管理士	緩和薬物療法認定薬剤師	2	日本緩和医療薬学会	2012/4/18
	放射線治療専門放射線技師	18	日本放射線治療専門放射線技師認定機構	2012/10/1
	放射線治療品質管理士	12	放射線治療品質管理機構	2012/12/14

出典:関係学会等の公表データから県とりまとめ

表10-1 がん放射線治療患者(外来)の受療動向

		患者住所の二次医療圏					
		奈良	東和	西和	中和	南和	受診総計
二次 医 療 圏	奈良	63.7%	0.0%	15.9%	4.7%	0.0%	23.8%
	東和	20.0%	69.2%	17.7%	9.9%	22.4%	23.3%
	西和	5.7%	0.0%	40.5%	4.7%	0.0%	13.4%
	中和	0.0%	30.8%	5.9%	72.3%	77.6%	29.1%
	南和	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	県外	10.6%	0.0%	20.0%	8.5%	0.0%	10.4%
	発生総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

出典: レセプト情報・特定健診等情報データベース(通称: ナショナルデータベース(NDB))による分析結果

表10-2 がん放射線治療患者(入院)の受療動向

		患者住所の二次医療圏					
		奈良	東和	西和	中和	南和	受診総計
二次 医 療 圏	奈良	41.1%	0.0%	8.8%	0.0%	0.0%	11.7%
	東和	36.1%	73.5%	30.2%	13.1%	0.0%	32.3%
	西和	7.8%	0.0%	31.3%	0.0%	0.0%	9.2%
	中和	0.0%	26.5%	15.4%	79.2%	100.0%	37.7%
	南和	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	県外	15.0%	0.0%	14.3%	7.7%	0.0%	9.1%
	発生総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

出典: レセプト情報・特定健診等情報データベース(通称: ナショナルデータベース(NDB))による分析結果

表11-1 がん化学療法(外来)の受療動向

		患者住所の二次医療圏					
		奈良	東和	西和	中和	南和	受診総計
二次 医 療 圏	奈良	51.4%	1.8%	11.7%	1.1%	0.0%	16.6%
	東和	23.5%	77.8%	15.7%	16.9%	16.3%	30.2%
	西和	12.5%	0.8%	55.3%	4.8%	0.0%	17.9%
	中和	4.4%	16.4%	8.1%	71.1%	38.8%	25.6%
	南和	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	33.0%	2.5%
	県外	8.2%	3.3%	9.2%	5.8%	11.8%	7.1%
	発生総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

出典: レセプト情報・特定健診等情報データベース(通称: ナショナルデータベース(NDB))による分析結果

表11-2 がん化学療法(入院)の受療動向

		患者住所の二次医療圏					
		奈良	東和	西和	中和	南和	受診総計
二次 医 療 圏	奈良	55.1%	0.0%	7.9%	0.9%	0.0%	15.1%
	東和	18.5%	68.4%	17.6%	14.2%	14.6%	24.5%
	西和	8.2%	3.8%	51.8%	5.1%	0.0%	16.4%
	中和	3.6%	25.3%	7.9%	72.1%	54.4%	31.8%
	南和	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.4%	1.9%
	県外	14.7%	2.6%	14.6%	7.7%	8.5%	10.3%
	発生総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

出典: レセプト情報・特定健診等情報データベース(通称: ナショナルデータベース(NDB))による分析結果

表12 手術、放射線療法、外来化学療法の実施状況

指標	データ項目	二次医療圏					県全体	全国値	
		奈良	東和	西和	中和	南和			
悪性腫瘍手術の実施件数	病院票(28)手術等の実施状況の「悪性腫瘍手術」の平成23年9月中の実施件数	総数	124	114	81	95	2	416	50,739
		人口10万人対	34.0	51.4	22.8	24.7	2.3	29.5	39.9
放射線治療の実施件数	病院票(32)放射線治療の実施状況で「放射線治療(体外照射)」の平成23年9月中の患者数	総数	432	131	237	1509	0	2,309	239,489
		人口10万人対	118.3	59.1	66.8	392.3	0	163.6	188.5
	病院票(32)放射線治療の実施状況で「放射線治療(腔内・組織内照射)」の平成23年9月中の患者数	総数	0	1	0	21	0	22	1,386
		人口10万人対	0	0.5	0	5.5	0	1.6	1.1
外来化学療法の実施件数	病院票(24)特殊診療設備の「外来化学療法室」の平成23年9月中の取扱患者延数	総数	348	662	419	831	32	2,292	192,815
		人口10万人対	95.3	298.5	118.2	216.0	37.4	162.4	151.8

出典：平成23年医療施設調査（厚生労働省）

表13 病理診断科医師数

指標名	二次医療圏					県全体	全国値
	奈良	東和	西和	中和	南和		
主たる診療科を「病理診断科」と届出をした医師数	4	5	2	7	-	18	1,515
(人口10万人あたり)	1.1	2.3	0.6	1.8	-	1.3	1.2

出典 平成22年 医師・歯科医師・薬剤師調査（厚生労働省）

表14 院内がん登録数

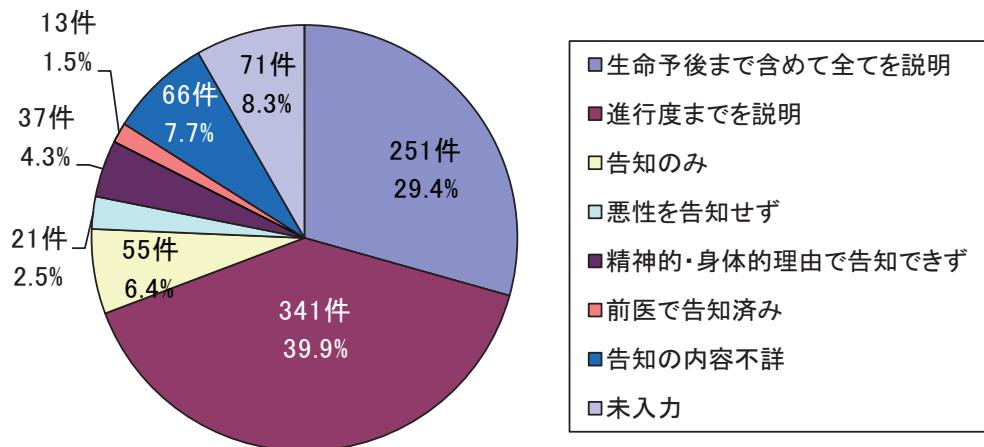
診断時住所が奈良県である患者の登録数(20歳未満)

		2009年 平成21年	2010年 平成22年
登録数	県内がん診療連携拠点病院 ①	29	30
	県外がん診療連携拠点病院 ②	11	11
	総数 ①+②=③	40	41
県内の割合 ①÷③		72.5%	73.2%

出典：がん診療連携拠点病院 院内がん登録 全国集計報告書  
(独立行政法人国立がん研究センター がん対策情報センター)

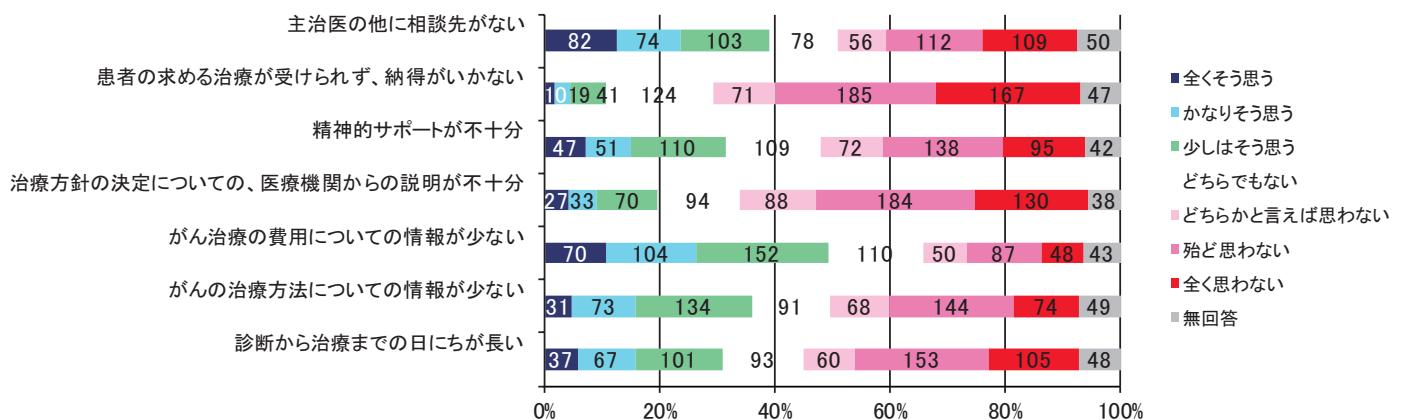
図19 医療機関側の治療開始前の告知状況

n=855



出典:消化器がん調査(平成 23 年 県実施)

図20 治療時の不満、不安 (対象:回答者総数の664名)



出典:がん医療に関するアンケート調査(平成 22 年 県実施)

## ②取り組むべき施策

### ○がん診療体制の充実

県民が県内で質の高いがん治療を受けることができるよう、平成28（2016）年度中に開院を予定する新県立奈良病院において、最新の放射線治療装置の設置を進めるとともに、外来化学療法室の拡充などを図り、がん医療における北和の地域医療を支える拠点病院として、機能整備を行います。

現在、がん診療連携拠点病院のない南和地域においては、公立3病院の役割分担、機能再編を行い、平成27（2015）年度中に開院をめざす救急病院（急性期）において、予防、診断、外科的療法、化学療法を基本とした上で、がん治療の充実を進めます。

国において進められているがん診療連携拠点病院のあり方についての検討状況を踏まえながら、県は、がん医療の均てん化と集約化、病院間の連携の観点から、県内におけるがん診療体制の検討を行い、地域がん診療連携支援病院のあり方や指定要件について検討します。

がん診療連携拠点病院等は、集学的治療の提供体制や各種チーム医療体制の整備を進めるとともに、放射線療法や化学療法等に携わる医師、看護師、薬剤師等の専門的な医療従事者の適正配置と育成を推進します。

県は、がん診療連携拠点病院等のがん診療に携わる医療従事者が、独立行政法人国立がん研究センターで実施される専門的な研修を受講するよう促進します。また、都道府県がん診療連携拠点病院である県立医科大学附属病院が実施する放射線療法や化学療法等のがん医療従事者研修を促進し、がん医療に携わる人材の専門性の醸成を図ります。

県は、看護師のキャリアアップ支援の一環として、認定看護師や専門看護師等の資格の取得を支援し、がん診療に携わる専門的な看護師の配置を促進します。

放射線療法については、高度な技術を要する治療は特定の病院に集中させ、それ以外の治療は他の地域がん診療連携拠点病院等で実施するなど機能分担が必要であるため、引き続き、奈良県放射線治療地域連携協議会を中心に情報の共有化を図り、病院間の連携を進めます。

化学療法については、奈良県がん対策推進協議会のがん医療部会化学療法分科会を中心に、がん診療連携拠点病院等における人材育成の進め方や病院間における連携方策について検討します。また、標準治療を均しく提供するためには、がん化学療法レジメンの質を担保する必要があり、がん診療連携拠点病院間の治療レジメンの共有や共通化の可能性について検討します。

県内の医療機関における手術療法の実施体制や病理診断体制、リハビリテーションの状況については、その実態把握を進め、必要な施策の検討を行います。

がん診療連携拠点病院等は、医科歯科連携による周術期及び放射線療法、化学療法時、骨転移治療薬投与時の口腔機能管理（口腔ケア）の充実と推進を図ります。がん診療連携拠点病院等が開業医と連携を進めるに当たり必要な支援については、歯科医師会と連携し検討を進めます。

国が進める小児がん拠点病院の指定・整備の動向を踏まえつつ、小児がん患者やその家族への支援のあり方や長期フォローアップ体制等について検討を進めます。

#### ○がん診療情報の提供の推進

がん診療連携拠点病院等をはじめとした医療機関は、インフォームド・コンセントを進めるとともに、患者やその家族が希望すれば、セカンドオピニオンを受けることができる体制整備を進めます。

がん診療連携拠点病院等をはじめとした医療機関は、診療機能や診療実績、専門医の配置の有無等の情報提供を進めるとともに、県は、がん診療に関する情報を一元的に分かりやすく整理し、広く県民や関係機関に提供します。その際、医療の質（Quality Indicator）の測定の観点についても研究を進めます。

### ③施策の目標、年次計画・実施主体

施策の柱	指標	現状値 (基準値)	目標値	主な取組	年次計画					関係機関				
					H25	H26	H27	H28	H29	県	市町村	拠点病院	医療機関	その他
●がん診療体制の充実	・悪性腫瘍手術の実施件数（人口10万人当たりの実施件数（1ヶ月分））	29.5件（H23.9）	増加	・新県立奈良病院の整備	整備	整備	整備	整備	◎	◎	◎	◎	◎	組合
	・放射線治療（体外照射）の実施件数（人口10万人当たりの実施件数（1ヶ月分））	163.6件（H23.9）	増加	・県内におけるがん診療体制の検討、地域がん診療連携支援病院のあり方や指定要件についての検討	検討	検討	検討	検討	◎	◎	◎	◎	◎	
	・外来化学療法の実施件数（人口10万人当たりの実施件数（1ヶ月分））	162.4件（H23.9）	増加	・チーム医療体制の整備、放射線治療や化学療法等に携わる専門的な医療從事者の適正配置・育成	チーム医療体制の整備 専門的な医療從事者の適正配置・育成	チーム医療体制の整備 専門的な医療從事者の適正配置・育成	チーム医療体制の整備 専門的な医療從事者の適正配置・育成	チーム医療体制の整備 専門的な医療從事者の適正配置・育成	○	○	○	○	○	
	・新県立奈良病院の整備	—	H28度中に開院	・放射線療法や化学療法等のがん医療に携わる人材の専門性の醸成	研修の受講	研修の受講	研修の受講	研修の受講	○	○	○	○	○	
	・南和の救急病院（急性期）の整備	—	H27度中に開院	・専門看護師、認定看護師の育成	育成	育成	育成	育成	◎	◎	◎	◎	◎	
	・がん診療連携拠点病院等におけるチーム医療の整備状況	—	2年以内に評価方法を決定し、目標値を設定	・放射線療法の病院間での連携推進	連携推進	連携推進	連携推進	連携推進	○	○	○	○	○	
	・患者やその家族の満足度（参考値）「治療方針の決定について医療機関からの説明が不十分である」と答えた人の割合	(参考値) 19.6% (H22)	3年以内に評価方法を決定し、目標値を設定	・化学療法について人材育成、病院間での連携方策の検討	人材育成・連携方策の検討	人材育成・連携方策の検討	人材育成・連携方策の検討	人材育成・連携方策の検討	○	○	○	○	○	
	●がん診療情報の提供の推進	—	・手術療法の実施体制、リハビリテーションの状況の実態把握と必要な施策の検討	実態把握と必要な施策の検討	実態把握と必要な施策の検討	実態把握と必要な施策の検討	実態把握と必要な施策の検討	実態把握と必要な施策の検討	○	○	○	○	○	◎ 歯科 医師会
	・口腔ケアの推進	—	・医科歯科連携による口腔ケアの推進	口腔ケアの推進	口腔ケアの推進	口腔ケアの推進	口腔ケアの推進	口腔ケアの推進	○	○	○	○	○	
	・小児がん患者やその家族の支援のあり方や长期フォローアップ体制等についての検討	—	・支援のあり方等の検討	支援のあり方等の検討	支援のあり方等の検討	支援のあり方等の検討	支援のあり方等の検討	支援のあり方等の検討	○	○	○	○	○	
	・医療機関の診療機能、診療実績等の公表	—	3年以内に評価方法を決定し、目標値を設定	診療機能等の公表	診療機能等の公表	診療機能等の公表	診療機能等の公表	診療機能等の公表	○	○	○	○	○	